

津久戸

平成30年5月1日

5月号 新宿区立津久戸小学校

今年度の教育計画について

本年度は、平成32年度より全面実施となる新学習指導要領実施に向けて、生活時程表を変更しました。水曜日は毎週B時程。1時間目の開始時刻が8時35分となります。いずれは、外国語活動の授業時数確保のために、水曜日の6時間目に授業を行うこととなります。(今年度は、5時間目まで)

また、体力向上の一貫として行っていた、朝の時間に行う運動日を「朝遊び」という名に変更し、自由に遊ぶ活動を確保するようにしました。

さらに、昨年度より試みた、広い外堀グラウンドでスポーツテストを行う「スポーツ遠足(5・6年)」も実施します。オリンピック・パラリンピックを契機とした教育の推進として、障害者スポーツの体験やオリンピック・パラリンピック選手・関係者の講演会も行う予定です。

研究については、昨年度に引き続き研究主題を「主体的・対話的な深い学び」を実現するための授業づくり～各教科での学校図書館の活用～として、「学校図書館教育」の充実を図っていきます。

本年度も本校の教育活動へのより一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

運動会を通して

校長 牧田 健一

新学期が始まり、1か月が経ちました。それぞれ進級した学年らしく生活しようと意欲にあふれた児童の姿が見られました。非常に頼もしく感じているところです。1年生も緊張の中での生活でしたが、担任や新しい友達と関係ができてつつあり、自分らしさを発揮し始めています。

さて、今月は運動会があります。オリンピック・パラリンピック東京大会が近づくにつれ、体力向上、運動の日常化等の声がよく聞かれるようになってきました。運動会も同じような要素を持ち合わせています。確かに大切な要素ではありますが、一番重要な要素は、他(国、人、障害等)を理解し、自らを磨き、鍛え共に栄えようという「自他共栄」の精神を学ぶことであり、まさに、将来を担う青少年の健全育成が最大の目的だと考えます。

「自他共栄」は、日本オリンピックの父と呼ばれる嘉納治五郎先生の言葉です。嘉納先生は講道館を設立し、柔道をスポーツとして確立した方でもあります。その柔道の稽古を通して、この考えに至ります。自らを高めるためことは、一人ではできない。指導者がいて技を習得できる、稽古の相手があってより磨きがかかる、指導者は教えることによって学び、お互いが切磋琢磨することで共に喜びを得るという考え方です。これは柔道の世界だけではなく様々な場面で当てはまります。地域社会において有用な人材となることを求めました。

学校は、一人ではできない活動がほとんどです。その教育活動の中で、お互いを尊重し受け容れ、認め合い、助け合いながら高め、創り上げていく学習を進めていきたいと考えています。運動会はその一端が見られるような一日になれば最高だと思っています。そのような学習を通して津久戸の子供たちには、共に「よりよく生きる」ことを考え、よりよい学級・学校、地域そして新宿区を、さらには世界を担う人材となることを確信しています。地域協働学校となり2年目となりました。地域の方々にもご協力をいただき地域を担う津久戸の子どもの育成にご協力をお願いいたします。

5月の生活目標

『人の気持ちを大切にしよう』

- ◇元気よくあいさつをしよう。
- ◇他の学年の人ともなかよく遊ぼう。
- ◇協力して活動しよう。
- ◇言葉づかいをきちんとしよう。



5月は、きょうだい学年での清掃や遊び、運動会に向けた練習など様々な活動を通して友達同士の関係が広がっていきます。お互いを思いやり、協力し合う関係ができるように、生活指導部からは挨拶の時の3つのポイントを指導しています。①『笑顔で』

- ②『相手の目を見て』
- ③『元気にはっきりと』

明るい挨拶ができると良いですね。



(生活指導部)